●北海道支部

支部便り

当事者の声は医療者の心にもっとも響くので、今回の特別講演は有意義でした

10 月 5 日（土）に「北海道 HIV 情報交換会」を対面形式で開催し、道内各地より医師、看護師、保健師、薬剤師、MSW、心理職、臨床検査技師、行政職等、44 名の参加がありました。今回は初めて特別講演に HIV 陽性当事者の方にお話しいただきました。医療者の関わりの中で感じていることとして、患者の QOL 向上を目指し、患者本人のエンパワメントを信じて対応することなど、ご自身の経験を踏まえお話しいただきました。一般演題 2 題も含め、参加者の活動・患者支援について振り返る機会となりました。全体を通して、会場からの質疑応答も多くあり、有意義な時間となりました。

●東北支部

東北地区の被害者は聞き取りやリハビリ検診会を通じて状況がだいぶわかってきましたが、福島県は状況がわからない方が多くいます。そこで 9 月には福島県の MSW 研修会に参加して被害者の現状を伝え、1 月には地元医療機関を訪問し、情報交換を行い、支援協力をお願いする予定です。福島県の被害者の支援漏れがないように、MSW や医療者と協働して進めていきたいと思います。

●中部支部

和解から 29 年近くが経ち、患者は治療の進歩の恩恵を受けられるようになりましたが、幼少時からの出血による関節の変形の治療も今後の課題です。今年も遺族、患者の親御さんが相次いで亡くなられました。今後も皆さんとお話をしながら、一緒に考え、歩んでいけたらと思っています。

5000 年前の縄文人が、太陽暦？
岐阜県にある、岩屋岩蔭遺跡群

●九州支部

高齢化等によりブロック拠点病院など遠方の医療機関への通院が続けられなくなったり、自力での生活が難しくなっている患者が少しずつ増えており、地元の医療機関や介護サービス事業所・介護施設などと新たに関係性を築くことが長期療養の課題となっています。

福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議が 11 月 7 日オンラインで開催されました。HIV 感染者の受け入れが困難であった医療機関や施設を対象とする民間調査会社によるヒアリング調査が実施され、来年 2 月の次回会議ではその調査結果報告をもとに対面で話し合われる予定です。行政や民間調査会社らさまざまな立場の参加者と一緒に考えることを通じて、長期療養をめぐる課題を地域社会で共有し現状を変えていきたいと思っています。

はばたき福祉事業団の活動は、拠出金や補助金、助成金などで運営されています。しかし、運営費用は年々厳しさを増してきており、経費節減の努力を最大限にしておりますが、事業を安定的に取り組み、被害者を永続的に救済していくためには、多くの方からのご寄附、賛助金等のご支援が欠かすことができません。

はばたき福祉事業団は平成 23 年 11 月 1 日に税額控除対象法人となり、はばたき福祉事業団へのご寄附は、以下のように税制上の優遇措置の対象となります。

＜個人によるご寄附＞

所得控除と税額控除のうち有利な方を選べます。税額控除は税額から直接控除額を差し引きますので所得控除と比べて減税効果が大きく、寄附者に大きなメリットになります。

＜法人によるご寄附＞

一般寄附金の損金算入限度額とは別に、特別損金算入限度額の範囲内で損金として算入できます。ぜひとも暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【郵便振替】
口座番号：00130-4-409457
名義：社会福祉法人はばたき福祉事業団
【クレジットカード】
ＱＲコードからお申し込みください。

社会福祉法人はばたき福祉事業団
Social Welfare Project HABATAKI Welfare Project

●東京本部　〒162-0814 新宿区新小川町 9 番 20 号
新小川町ビル 5F
TEL 03-5228-1200　FAX 03-5227-7126

●北海道支部　〒064-0805 札幌市中央区南 5 条西 10 丁目
サンハイツ南 5 条 1005 号
TEL/FAX 011-551-4439

●東北支部　〒980-0812 仙台市青葉区片平 1 丁目 2-38
チサンマンション青葉通り 905 号　花咲み法律事務所
TEL/FAX 022-215-0303

●中部支部　〒460-0003 名古屋市中区錦 2 丁目 4-3　錦パークビル 2 階
さくら総合法律事務所気付
TEL 052-265-6663

●九州支部　〒810-0062 福岡市中央区荒戸 3-2-5
東峰マンション第一西公園 303 号
TEL/FAX 092-717-6329

Habataki

2025 年 1 月 1 日　発行
第 74 号

社会福祉法人
はばたき福祉事業団
〒162-0814
東京都新宿区新小川町 9 番 20 号
新小川町ビル 5F
TEL 03-5228-1200
FAX 03-5227-7126
http://www.habatakifukushi.jp/

生きる力を高め、医療福祉を創造するはばたき福祉事業団
患者が変われば、医療は変わる

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、心より御礼申し上げます。

私たち薬害 HIV 感染被害患者は感染から 40 年以上が経過し、HIV 医療の進歩を身をもって体験してきました。

しかし、劇的な医療の進歩に比べ、それほど暮らしやすくなった実感はありません。これは、遺族にとっても同じことです。患者も遺族も、偏見・差別による孤立は今も続き、自立生活が難しくなったときの不安は絶えません。

はばたきでは、以前から提唱してきた切れ目のない「医療福祉」を掲げ、専門職の力を借りながらソーシャルサポートの充実に取り組んでいきます。

本年も、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人はばたき福祉事業団
理事長　武田飛呂城

第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会
はばたきが優秀演題賞 3 本受賞！

11 月 28～30 日、第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会が東京・京王プラザホテルで開催されました。はばたき福祉事業団からは口演 4 本、ポスター発表 5 本を発表しました。このうち、3 本が優秀演題賞を受賞しました。詳しくは次ページをご覧ください。

はばたきとしては、今回が初の優秀演題賞の受賞でした

世界エイズデーコミュニティサミット 2024
HIV 流行終結をめざす日本の課題を報告

ギリアド・サイエンシズ株式会社主催の「世界エイズデーコミュニティサミット 2024」が 12 月 2 日（月）に開催され、GAP6 の一員として参加・発表しました。これは、ギリアド社が、コミュニティのエンパワーメントを目的に、日本の課題やアジア地区のコミュニティでの取り組みを各々報告し、コミュニティ同士の交流を深めるために開催したものです。GAP6 からは 2030 年までの HIV の流行終結を目指す日本の課題として、検査・予防・治療・誤解/偏見をテーマに報告しました。アジアからの報告の中で印象的だったのは台湾での U=U の啓発活動でした。どうしても個別施策層に重点を置きがちなところ、一般に絞り U=U の知識を楽しく啓発する取り組みは見習うべきと感じました。このサミットを通して、日本の課題について改めて認識するとともに、近隣諸国のコミュニティのパワーも目の当たりにしました。community led（コミュニティ主導）と盛んに言われているように、当事業団も発想力・企画力・実行力をもち取り組んでいきます。

ＧＡＰ６の取り組みを報告

日本エイズ学会 優秀演題賞

はばたき受賞演題のご紹介

今回のエイズ学会で受賞した３本の演題名は以下の通りです。

・**「薬害 HIV 感染被害者らには医療機関への通院による負荷はどれくらいかかっているのか」**（岩野友里）

・**「薬害 HIV 感染被害者の安心安全な長期療養のためのソーシャルサポートネットワークの整備～通院状況と健康関連 QOL に関する検討～」**（久地井寿哉）

・**「HIV 検査・相談室サークルさっぽろにおける相談を鍵とした社会的支援の分析～北海道札幌市に一つだけある民間運営の検査相談施設の意義～」**（坂本玲子）

長期療養研究班から２本受賞、大きな成果に

「医療機関への通院による負荷」では、ACC、ブロック拠点病院の通院患者は通院時間や費用がかかり、今後高齢化等による通院負担の増大を考えると負荷軽減策が必要であることを報告しました。「ソーシャルサポートネットワークの整備」では、質生活生存年を表す QALY という指標を用い、QALY が低い人は受診科や通院頻度が増加するため、支援拡充が課題であること、どちらも被害者の長期療養研究班で実施した調査結果を発表したもので、研究班の大きな成果となりました。

授賞式には学会長の岩橋恒太氏も出席し、受賞者への祝辞を述べました

「サークルさっぽろ」の地域での実践活動と研究が高く評価

「サークルさっぽろ」の HIV 検査・相談は、2007 年 12 月から札幌市の委託を受けて運営してきました。検査はブロック拠点病院である北大病院が行い、専門の相談員が相談対応しています。その結果、検査結果で陽性と判明した場合、陽性者を病院へつなぐ割合は 96%と高く、コロナ禍で受検控えがある中、相談利用率は高い水準で推移、札幌市の HIV の予防資源として機能し、感染対策に寄与してきたことをポスター発表しました。この実践活動と研究は価値ある貢献として、エイズ学会から高い評価をいただきました。

新宿区内の HIV に関わる施設を新宿区長・区議と巡る

HIV/エイズ スタディバスツアーを行いました

日本の新規 HIV 感染者のうち、東京都は約 1/3 を占めています。新宿区は日本有数の歓楽街である歌舞伎町もあり、全国で最も感染者数の多い自治体と言えます。一方で、新宿区内には医療機関や支援・啓発団体、検査所が集中し、最も対策が進んだ地域です。

コミュニティや医師も多数参加しました

はばたきではぷれいす東京、JaNP+とともに、新宿区保健所、コミュニティセンターakta、ACC を新宿区の区長や区議会議員と巡るバスツアーを 11 月 23 日に行いました。ツアーに参加した新宿区議からは、「医療は進んでいるが、差別偏見は変わっていない。社会の認識がアップデートされていない」と検査の普及等今後の取り組みへ気持ちを新たにしていました。

第 19 回はばたきメモリアルコンサート

チェンバロと弦楽四重奏の演奏が好評でした

11 月８日（金）に王子ホールで「第 19 回はばたきメモリアルコンサート」が開催されました。今回はチェンバロと弦楽四重奏の競演で、ピアノとは違った音色のチェンバロが好評でした。弦楽四重奏も多くの人が知っている名曲の演奏で、楽しめたと好評でした。被害者による合唱では、難易度の高い「Amazing Grace」を見事に歌い切りました。最後の来場者全員による「みんなで合唱」では演奏者も全員ステージに上がり「上を向いて歩こう」を歌いました。

コンサートでは多くの来場者からご寄附をいただきました。皆様のご厚志、感謝申し上げます。ご寄付を頂いた方には、毎回遺族による手作りグッズをお渡ししています。今回はリバーシブルのバッグで、デザインも実用性も高く、多くの方が喜んでいました。なお、次回は 10 月 17 日（金）に王子ホールで開催が決まりました。第 20 回という記念となる会ですので、ぜひご来場ください。

チェンバロと弦楽四重奏によるビバルディ「四季」の演奏

AMED 市民公開講座

「みんなで考える未来の血友病診療」オンライン開催

AMED 市民公開講座「みんなで考える未来の血友病診療～血友病診療の今とこれから～」を１月 26 日（日）に開催いたします。今回はライブ配信での開催となりますが、当日の模様はオンデマンド配信もしますので、当日見逃した方もご視聴できます。内容は、研究班代表である大森司先生（自治医大 教授）が「この１年における血友病治療薬の進歩」というテーマで講演を行い、研究班のメンバーが参加して座談会「血友病の診療の歴史と遺伝を考える」を行う予定です。

●日時：**2025 年１月 26 日（日）13 時 30 分～15 時**

●開催：**オンライン（ライブ配信）**

※開催翌日から期間限定でオンデマンド配信します

薬害エイズ裁判 和解 29 周年記念集会

講演は満屋裕明先生

３月 22 日（土）に「薬害エイズ裁判 和解 29 周年記念集会」が開催されます。今回も会場とライブ配信のハイブリッド開催となります。会場は例年と異なりますので、ご注意ください。

今回の講演は、世界で最初のエイズ治療薬を発見した満屋裕明先生（国立国際医療研究センター研究所 研究所長）です。とても興味深いお話が聞けると思いますので、是非ご参加ください。

●日時：**2024 年３月 22 日（土）14 時～16 時**

●会場：**トラストシティ カンファレンス・丸の内 Room3+4**

※会場は例年と異なります。ご注意ください。